

健康日本21(第二次)中間評価方法について

〈基本的考え方〉

目標に対する実績や取組の評価を行うとともに、その評価を通して値の動きや特徴的な取組について“見える化・魅せる化”する工夫を行う。

これらの評価結果を踏まえ、今後の社会状況の変化等も見据え、重点的に取り組むべき課題を検討する。

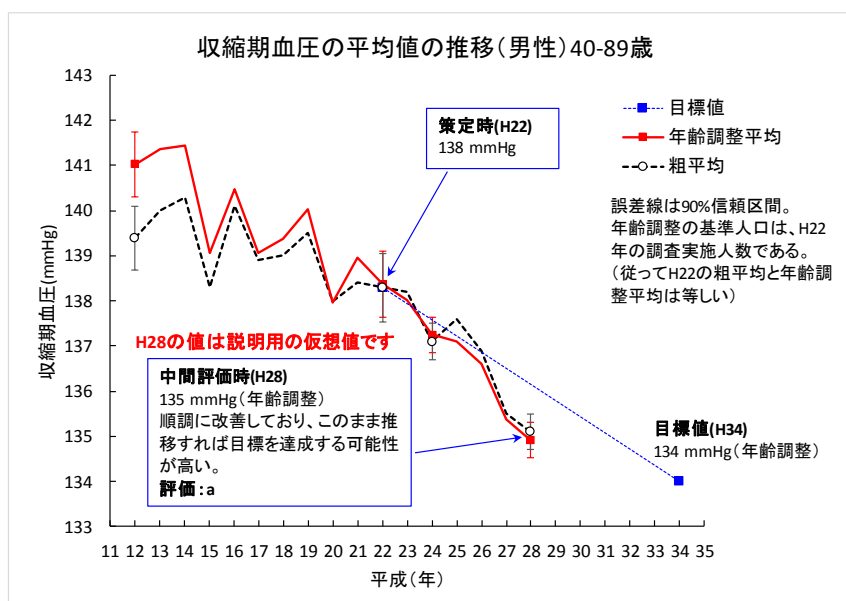
1. 目標に対する実績値の評価方法について

指標(53項目)について、計画策定時の値と直近の値を比較し、分析上の課題や関連する調査・研究のデータの動向も踏まえ、目標に対する数値の動きについて、分析・評価を行う(様式1)。

① 直近値に係るデータ分析

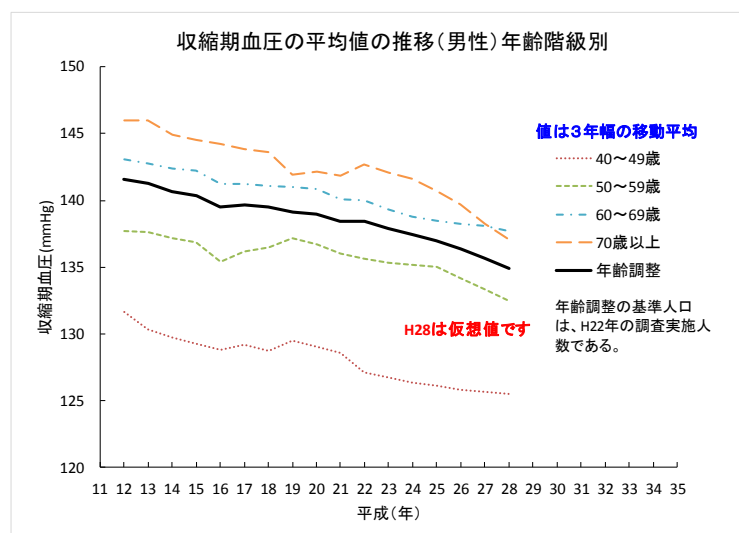
- 直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、分析する。
- ベースライン値と直近値の比較に当たっては、原則として有意差検定を実施。その際、数値の変化がわかる図を合わせて作成する。
- 目標に対する実績値の動きについて、目標とする値が一定程度の抑制を図ることを予測して設定されている場合などは、目標への到達に向けて現状値の動きがわかるような図とする(以下の収縮期血圧の平均値の例を参照)。その際、有意差検定を実施するとともに図の現状値に95%(片側検定の場合は90%)信頼区間を示すエラーバーをつける。

(例)



- ・ 全体の値だけではなく、性、年齢、地域別などで値に差がみられるものは、それらの特徴を踏まえた分析を行う。

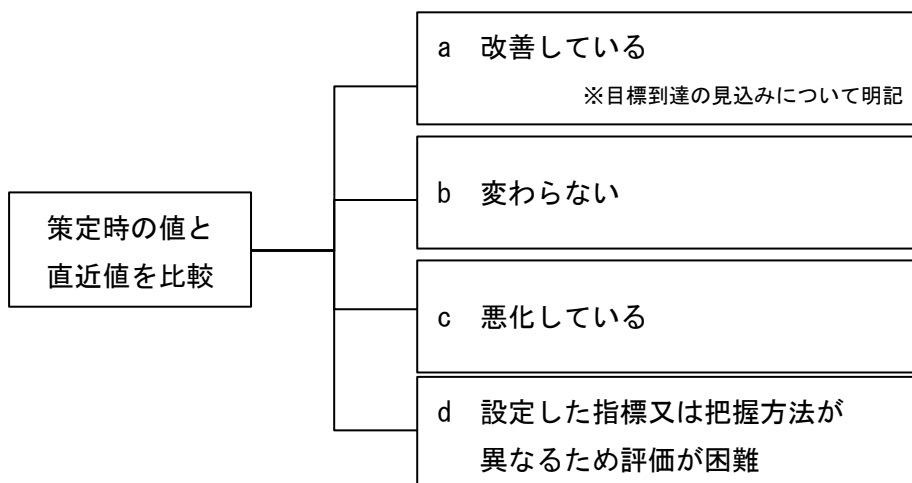
(例)



- ・ 平成 12 年以降継続してデータを収集しているものは、平成 12 年以降の状況もあわせて分析を行う。分析が可能なものにおいては、粗データでの変化と平成 22 年国勢調査データ（必要に応じて他の基準人口も考慮する）で年齢調整した値の変化を検討する。

② 改善状況についての評価

- ・ 直近の実績値が目標に向けて、改善したか、不変または悪化した等を簡潔に記載する。
- ・ 改善については、目標値に達しているのか、達成していない場合は、目標の到達に向けて予測される値の動きと比較して順調に推移しているかなどの具体を記述する。
- ・ 評価については、以下のとおり、a, b, c, d の 4 段階で評価する。



2. 各指標の評価を踏まえた領域ごとの取組状況や今後の課題の整理について
(様式2)

- ① 領域ごとに、指標の状況として、指標全体の総括評価を行う。
 - ・ あわせて、健康日本21（第二次）の目標設定の際、領域（指標が3つ以上ある領域）ごとに目標の設定の考え方の図で示しているので、指標間の関連にも配慮し、図中に、a b c dの評価を入れた図を作成する。
- ② 関連した取組については、取組の全体がわかるように、また以下の点に留意して整理を行う。整理した資料は、別添に資料として添付する。
 - ・ 具体的取組について、どの程度広がったかなどの評価を行う。
 - ・ 実施した取組について、指標の改善や悪化などの状況との関連を分析し、その結果を踏まえた重要な取組についての整理を行う。
 - ・ 数値目標に関して、具体的にどういうことに取り組めば目標が達成されるか、達成することが可能かについての整理を行う。
 - ・ 社会環境の整備に関する取組などは、複合的な取組として連動して動いているので、その構造がわかるように図で示すなど工夫する。
- ③ 今後の課題については、以下の点に留意して整理を行う。
 - ・ 実施した取組と指標の改善や悪化などの状況との関連を分析した結果などから、充実・強化すべき取組の整理を行う。
 - ・ 充実・強化すべき取組を行うに当たって必要となる研究の整理を行う。
 - ・ 今後重要になると予測される課題や要因について、現状把握が必要なもの、特に次期（第三次）計画に向けて新たに必要なデータがあれば言及する。